



# くまもと未来ネット通信

## Kumamoto Mirai Net Working Report

通信をご覧の皆さま、新年のご挨拶が遅くなり申し訳ございません。謹んで新春をお祝い申し上げます。平成から新元号「令和」へと改元され、未来ネットも気持ちを新たに取り組んでまいりますので、本年もご指導ご支援をよろしくお願いいたします。

2019年11月30日（土）大江公民館においてNPO法人くまもと未来ネット第12期通常総会を開催いたしました。交代・就任いたしました代表の挨拶文を次ページに掲載しておりますので、お目通しいただければ幸いです。

※くまもと未来ネットは、持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。右肩に示したアイコンは記事に関連したSDGs 17の目標からの引用です。



### 関連事業会社の設立につきまして

くまもと未来ネット（旧環境ネットワークくまもと）では、市民共同発電所（太陽光）による再生可能エネルギーの普及に長年取り組んで来ましたが、設置支援で8基、自社としては3基の実績となっています。この間、太陽光発電は市民が手の届く投資対象として広がり、設備価格の低下に伴いFIT（固定価格買取制度）の援助幅も年々縮小する状況になっています。しかしながらまだ、これらの設備は多額の初期投資が伴うもので、その資金確保に苦労をして来ました。

さて、先の総会でご報告させていただきました通り、新たな展開として昨年度後半より

「ソーラーシェアリング」（営農型太陽光発電）への調査・取組みを開始しましたが、発電事業を具体的に進めるために関連事業会社を設立致しました。発電施設を複数基扱う事となり必要資金も大きくなるため、くまもと未来ネット本体とは別に関連事業会社として設立するものです。以下の役員構成となっております。今後、銀行からの投資を得まして、発電事業からの収益による、雇用の安定と社会事業への資金循環を目指して本事業を進めていきます。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

（エネルギー部会・理事 井上智）



## 第12期通常総会開催報告

2019年11月30日（土）大江公民館においてNPO法人くまもと未来ネット第12期通常総会を開催し、以下の第1～4号議案が承認可決されました。

第1号議案 第12期事業報告

第2号議案 第12期決算報告及び監査報告

第3号議案 第13期事業計画・活動予算（案）

第4号議案 役員を選任について

清水菜保子（監事）、園田敬子（監事）が任期満



了により第12期をもって退任いたしました。長峰秀幸（監事）が新任。また、林にかわり新たに原育美が代表理事へ就任いたしました。

### 代表就任挨拶（原 育美）



昨年11月、第12期総会で新たに代表として私原が選任されました。原田正純先生が長年温められていた「地球と地域環境を守る市民組

織をつくろう」という構想を基に1994年に発足し、20年の活動を誇る「かんくま」を引き継ぎ、2016年の熊本地震後に組織改変をして設立した「くまもと未来ネット」。その代表という重責を担うことができるのか、幾度も逡巡しました。しかし、2015年に国連により提唱されたSDGsの取り組みが熊本でも活発化し、さらに気候変動による地球環境崩壊の危機を回避するため196カ国により採択された『パリ協定』がカーボンニュートラル（脱炭素）社会の実現に向けた動きが世界で加速する今こそ、“かんくま”時代から25年にわたり丁寧に地域パートナーシップを構築しながら継続してきた持続可能な地域づくり活動を次世代

に引き継いでいかねばと思い直し、代表就任を決意いたしました。

気候変動が深刻さを増し、言葉を失うほどの大規模災害が世界各地を襲い、食糧生産や世界経済にも甚大な影響を及ぼし、いまや環境・経済・社会のあらゆる面で持続可能性を危ぶむ声が高まっています。1997年京都で開催されたCOP3から20年、私たちは温暖化を止めるために一体何をやってきたのだろう、と悔しさをかみ締めていますが、ここで諦めるわけにはいきません。

世界では2030年カーボンニュートラルを宣言する国、自治体、教育機関、団体が相次いでいます。私たち大人と政府に対し、未来への責任を果たして！と訴え行動を起こし始めた世界の若者たちと連動して熊本でも活動を広げていきたいと思っています。

生命維持装置である地球環境システムの崩壊と、文明崩壊の危機を避けるために“根源的な改革”が必要だと世界の科学者は指摘し、その声は緊急性を増しています。大量生産・大量廃棄を生み出した産業革命から300年、地球の環境容量は限界に達し、持続可能革命が必須となりました。

私たち一人ひとりがこの現状を深く認識し、持続可能革命の担い手として社会を創りかえる方法を学び、話し合い、ロードマップを描き、着実にかつスピード感を持って持続可能な未来に向かって地域で行動していきましょう。くまもと未来ネットもその一翼を担います。橋口英夫、原田正純、宮北隆志、そして未来ネット初代代表林信吾の各代表に引き続きましてこれからもご支援、ご協力、激励、時には忌憚のない叱咤をどうぞよろしくお願いいたします。

活動の4本柱である分科会については、担当する各理事が引き続き活動・事業を発展させていきます。

循環型社会に不可欠な地域資源活用の再生可能エネルギー普及に2004年から取り組んでいますが、その一環としてエネルギー部会メンバーを中心に新会社を設立し、農業とエネルギーづくりに一体的に取り組む「ソーラーシェアリング事業」を始めます。この会社には当法人も出資することが総会で承認されました。事業パートナーは、「環境エネルギー政策研究所」と、全国のソーラーエネルギー事業者のネットワークである「ご当地エネルギー協議会」です。現在事業参加を申し出ていただいた数件の農家と契約を交わし、低圧の設備設置に向けて鋭意諸手続きを進めています。

## 各理事よりご挨拶申し上げます



副代表理事 宮北隆志

予期せぬ現場離脱から2年半、とりわけ“絶飲食”の10ヶ月は、自分のカラダに向き合い、生き物の一つの種として“食べること・生きること”についての意味をあらためて問い直す良い機会となっています。頭で描くようにはカラダが動いてくれないのは歯がゆいことですが、一つひとつの命が大事にされる“公平”な社会の実現に向けて前に進んでいきます。



理事 兼 事務局長 林信吾

事務局長に専念することで、より事業の遂行に尽力したいと思います。ソーシャルビジネスの立ち上げ、そして、その収益化により地域課題、社会問題を解決していきます。エネルギーから生物多様性、フェアトレード、福祉まで、様々な分野で社会に貢献します。



理事 明石祥子

来年2021年、熊本市はフェアトレードタウンになって10周年を迎えます。SDGsの実動としてもエシカル消費としてのフェアトレードの普及に努めます。



理事 井上智

旧かんくま発足から実行委員となり、現在は理事を継続しております。長年経過を見て来ましたが、当会の活動テーマは広く深く理想を追うので、活動が安定する期間はあまりありません。行く末をもう少し見届けたいと思いますので、会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。



理事 大住和子

未来ネットも参加している水D oネットワーク主催の第1回リフィルサミットに参加しました。担当の、特定非営利活動法人アーキペラゴ代表の森田さんたちの最初の活動、海ゴミ集めをした後、うどん県のうどんを堪能。その土地ならではの楽しみのために参加するようなものです。



理事 山口久臣

NPO法人くまもと未来ネットが目指すべき方向性は、熊本の“環境地域づくり”のためのコミュニティ・ビジネス（CB）、ソーシャル・ビジネス（SB）を企画し創出して、プロデュース、コーディネーションして行ける中間支援事業を確立して行くことだと思います。みなさん、知恵を絞り情報を集め洗練させ具現化して行きましょー！！



理事 宮瀬美津子

「熊本市がSDGs未来都市に選定されたことを契機として、持続可能性に関する市民の関心が高まっています。そこで、今期は、フェアトレード分科会、持続可能な消費ネットなどの活動をより一層充実させ、エシカル消費に関する啓発を推進して行きたいと思っています。



理事 歌岡宏信

月末に最新版熊本県版レッドデータブックが出版されました。県内の動植物とその生息環境など、生物多様性保全について現時点での課題をまとめたものになっています。事務所本棚に置いて参考にしながら活動していくつもりです。

※都合により一部の理事による挨拶の掲載となっております。

# 「第1回Refillサミット2020 in 高松」報告



水「Do」ネットワークでは、さまざまな使い捨て容器、特にプラゴミの問題を提起して、マイボトル、マイバッグ持参を広く呼びかけている。そして、基本的には水道水を飲み、マイボトルの中身がなくなった時は給水スポットで給水できるようにする。その給水場所をアプリに入れて、どこにいてもアクセスできるようにしようという活動を展開している。条件は、無料で飲めること。水道直結冷水機付きであること（夏場は冷たくないとおいしくない）。2019年3月の集会にイギリス・ブリストルのガス・ホイトさんを招き、活動内容の学習を行った。そしてアプリの開設を行うことになった。この活動に特化して、Refill Japanを立ち上げ、5月には、移動式の給水器のお披露目を行った。リースできるので、全国のあちこちで実験的に使用してみた。

分析、京都大学におけるレジ袋削減プロジェクト、プラスチック問題の論点など、わかりやすく話してくださった。その後、全国で活動している団体からの報告。今回の運営協力団体である高松市のRefill高松から、うどん県としてのユニークな活動を、Refill生駒市からは、行政が取り組む給水スポットの紹介、Refill京都からは、リデュース・リユース食器を使い、祇園祭などの後が汚くならない提案をしている。熊本市にも、熊本駅前新幹線口、熊本市役所前、そして福田病院の前にも栓が小鳥になっている可愛い水道があり、そこには休めるテントも立ててある。熊本的な給水スポットとしては、熊本市動植物園南門前の湧水が定期的に検査をしてあり、立派な給水スポットである。みなさんもお気づきの給水スポットがあったらご一報ください。

2020年1月26日（日）香川県高松市ヨット競技場大会議室で、第1回 Refillサミット in 高松を「給水スポットを全国に広げよう！」と題して、開催。基調講演は「使い捨て型ライフスタイルからの転換を」と題して、京都大学大学院地球環境学浅利美鈴先生に、「使い捨て型ライフスタイルからの転換を」と題して、ゴミの内容



## ご支援・ご協力をありがとうございます (2019.10~2020.3)

### 【正会員】

- (個人) 手嶋敬、中村潤三、坂本講一、中村専久、鎌田聡、松本圭子、小椋清市、田尻和子
- (法人) (株)ネイチャー生活倶楽部 (団体) 梅原たかよし、宮瀬美津子

### 【賛助会員】

- (個人) 徳永達朗、田中利和、富山善一、菊水正博、愛甲三郎、備後由喜江、中村博子、中田哲也、村山知之、真次寛、磯田毅、反後人美、竹熊千栄子
- (法人・団体) 山下歯科、エコワークス(株)、コムスタカ外国人と共に生きる会、熊本県労働者社会協議会

【維持会員】九州太陽電池工業(株)、宇野昭彦、原育美、宮北隆志、井上智 ※敬称は省略しております。

寄付・会費等のお支払いは以下の口座へよろしくお願い致します。

肥後銀行	味噌天神支店	普通預金	1495574	NPO法人	くまもと未来ネット
九州労働金庫	熊本支店	普通預金	2702440	NPO法人	くまもと未来ネット

### 【発行】



少し歩くと熊本市のオアシス  
[上江津湖へ行ける場所へ引越しました★](#)

〒862-0942 熊本市東区江津1-7-17  
TEL 096-362-3776 / FAX 096-200-6395  
E-mail: home@kumamoto-mirai.com

☆最新情報はFacebookをご覧ください  
<https://www.facebook.com/kankuma1994/>